# ほ～っと

No.9
2003 Summer

特集

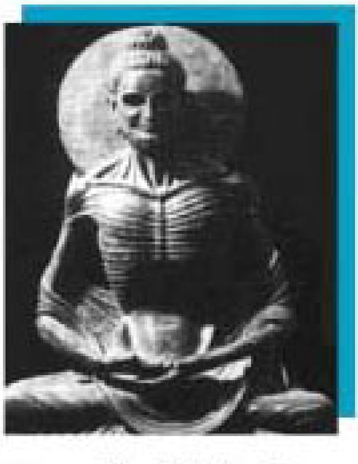
# お釈迦様ものがたり
## ――出家されたころのお話

### ひとり苦行の森へ

前回お話しましたように、お釈迦様は王子として何不自由なく育てられましたが、人間の持つ四つの苦しみ――生・老・病・死への関心を高めて行かれました。人はなぜ生まれ生きるのか、なぜ老いていくのか、なぜ病気になるのか、なぜ死ぬのか。いくら考えても答えは見つかりません。

鬱々として楽しまぬお釈迦様を心配した父王は、十六歳になると同時に結婚させてしまいます。相手は一族の名門の娘、賢く美しいヤショダラ姫。やがて男の子も生まれ、幸せな日々が過ぎてゆきました。しかし、その生活もお釈迦様の心を変えることはできません。

ある日突然、愛馬カンタカにまたがったお釈迦様は、従者とともに城を抜け出します。夜明けまで走りつづけたお釈迦様は、身につけていた宝石や衣類を従者に渡し、「生死の根本的な問題を解決するために出家します」という父王への伝言を託します。髪を切り、粗末な布をまとい、修行者たちが住む苦行の森へ入っていきました。二十九歳のことです。



### 六年の苦行の果てに

当時、修行者のあいだでは苦行が解脱への道とされていました。多くの弟子を持つ指導者もおり、お釈迦様は彼らを訪ねて生・老・病・死から開放される方法を訊きますが、満足のいく答は得られません。やむなく森に入り一人で苦行をはじめました。一日一粒の胡麻や米で飢えをしのいだり、ついには断食を行い、呼吸を止め、現世への執着を断ち切ろうとしました。

お釈迦様の身体は、肉がそぎ落ち、皮は骨に張りつき、肋骨や血管が浮き出し、命も危ぶまれるほどに痩せ細りました。しかし、いくら苦行を重ねても悟りは得られません。六年の歳月が流れていました。「修行者多しといえど、この私以上の苦行を実行した修行者はいない。しかし、いまだに悟ることはできない。苦行では不可能だ」お釈迦様は決然と苦行を止め、森を出て、川で身体を清めました。

### いよいよ悟りへ

衰弱した身体を木の下で休めていると、そこに村娘スジャータが極上の乳粥を持って通りかかりました。お釈迦様のあまりの衰弱ぶりを憐れんだスジャータは、乳粥をお釈迦様に捧げます。

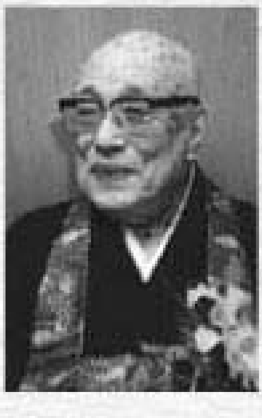
滋養にあふれた乳粥をゆっくり喉に通したお釈迦様は、元気を回復し川を渡りました。そして、一本の菩提樹のもとに聖なる草を敷き、静かに坐り、瞑想に入りました。「悟りを開くまで、決してこの場を立つことはない」断固たる決心をして、足を私たちが坐禅するときのように結跏趺坐に組み、禅定に入りました。

これを知った魔王が三人の娘を地上に走らせ、秘術を尽くして邪魔をしますが、お釈迦様はこれに打ち勝ち、悟りを得られます。その話は次回ということにいたしましょう。

方丈禅談

# 神さまになった男の話

含松山　臨南寺住職　渡邉　剛毅



今年は当山のご開基である鈴木重成公の没後三百五十周年にあたります。鈴木重成公は、徳川家の旗本として、関が原の戦いや大阪冬の陣・夏の陣に参戦。次第に重んじられ、寛永五年（一六二八）四十歳のとき上方代官に任ぜられて、大阪にやってきました。

寛永十八年天草の代官に任命され、島原の乱で荒れ果てた天草の復興に力を尽くします。乱の犠牲者の供養塔を建て、周辺各地から移住者を誘致し、三十以上の寺社を建立しました。さらに、過大な年貢のもとになっていた石高を再調査して、勘定奉行に石高半減を陳情します。しかし認められず、やむなく切腹して果てました。享年六十六歳。その六年後ようやく天草の石高半減が実現します。喜んだ天草島民は、鈴木神社を建立。神様としてまつっています。島内の村々には祠があり、いまも「鈴木さま」と呼んで敬慕の心を寄せています。

代官というのは、官僚と政治家の両面を持っていますが、今の日本に自分の命を投げ出しても国民のことを考える官僚、政治家がいるでしょうか？　これだけ素晴らしい人物が江戸時代の初めにいたことを、もっと多くの人に知ってもらいたいと切に願っています。

# まもなくお盆の季節がやってきます。

臨南寺　副住職　大澤正道

お盆の時期が近づいてきました。お盆のことを、お寺では盂蘭盆会といいます。一口にお盆といいましても、地方や言い伝えなどによって形はさまざまです。関東の一部では、七月にお盆のお勤めをするところもあります。迎え火、送り日の風習が残っているところもあれば、新盆（初盆）には玄関先で高い竿に灯篭を吊るしたり、地蔵盆の盛んなところもあります。形はどうであれ、お盆の期間中は、「ご先祖様や亡き人と一緒に過ごしたい」という共通の思いが感じられます。

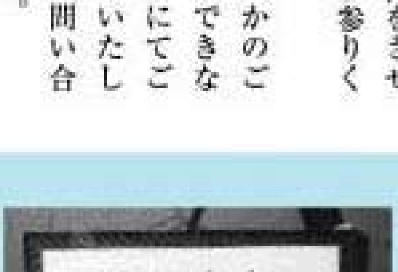
臨南寺でも、八月一日から、棚経のお勤めをさせていただきます。八月十六日には、本堂において、送り盆にあわせて盂蘭盆会大施食会を修業いたします。各家のご回向をさせていただきますので、ぜひご焼香にお参りください。

また、何らかのご都合でお参りできない方は、不参にてご回向をお受けいたしますので、お問い合わせください。

# 鈴木重成公没後三百五十年記念シンポジウム開催

5月25日（日）

今年は、臨南寺を創られた鈴木重成公の没後三百五十年にあたりますが、それを記念したシンポジウムが熊本県・天草の本渡市で盛大に開催されました。天草代官として赴任し、島原の乱後の天草の窮状を救い、島の人々から神様と慕われる鈴木重成公。写真は、本渡市の小学校に掲げられた標語です。鈴木重成公への思いは、今もしっかりと受け継がれています。



# 弁天さま万灯祭

**八月十二日（火）**

八月十二日（火）の夕方から臨南寺の境内は、揺れるともしびに包まれます。弁天さま万灯祭。ご先祖のご供養を行うとともに、願いがかなうよう祈りを捧げる行事です。

弁天さまは、もともと水の神様。苦しみを水に流し、福を与えてもらえるといわれます。また弁天さまは、知恵と財福と音楽の神様。合格祈願、芸能上達にも霊験あらたかといわれています。

みなさまの願い事を書き入れていただける灯籠・献灯を用意しております。ご先祖や亡き人の菩提を祈るとともに、みなさまの願いをご祈念させていただきます。どうぞお誘い合わせの上、お参りください。

**法要は、午後六時四十分からと午後八時から執り行います。**

## 能に触れる夕べ

**午後五時五十分から本堂にて**

喜多流の長田驍師を招いて能の上演を行います。今回は入門編。初めての方にも能の楽しさを味わっていただけます。

演目は「羽衣」。春の朝、漁師が浜辺で松の木にかかった天女の羽衣を見つけます。「返してほしい」と頼む天女に突っぱねる漁師。嘆き悲しむ天女を不憫に思った漁師が、天上の舞を見せてくれることを条件に返します。羽衣を着た天女は天上の舞楽を舞い、やがて霞のかなたへ消えて行きます。今回は、天女が羽衣を着て天上の舞いを舞うところを演じていただきます。

「おもて」と呼ばれる面をいくつか用意して、手にとって見てもらったり、みなさまの質問にもお答えいただきます。ぜひご参加ください。

長田先生

## セレッソ大阪トークショー

**午後七時から**

長居スタジアムをホームグラウンドにしているセレッソ大阪から、西村監督、国際大会で活躍している大久保選手をはじめ、酒本選手、伊藤（仁）選手、多田選手などが参加予定です。

西村監督

**・トークショー**

監督、選手たちの大きな願い、身近な願いを話してもらいます。皆さんからの質問にも、もちろん答えていただきます。

**・チャリティーグッズ抽選会**

セレッソ大阪のトップ選手から出品してもらった品物を抽選で。抽選券の収益金は、関西盲導犬協会、日本レスキュー協会、永寿福祉会（平野自由学園）に寄付させていただきます。

**・献灯**

優勝を願って、みなさまご一緒に献灯していただきます

灯籠一基 三〇〇〇円
献灯一灯 一〇〇〇円

大久保選手

## 臨南寺行事予定

□**親子坐禅会**
七月二十七日(日)午前十時〜十二時
八月二十四日(日)午前十時〜十二時
定員十組　無料(要予約)
坐禅の後、ボディペインティング体験教室を開きます。夏休みの思い出を親子で作りませんか？　ボディペインティング体験教室にご参加の方は水着をご用意ください。

□**墓前回向（旧墓）**
八月十日(日)午前十時〜十二時

□**弁天様万灯祭**
八月十二日(火)午後五時五十分〜九時
詳しいことは、前々ページに紹介されています。

□**墓前回向（新墓）**
八月十二日(火)午後七時〜九時

□**お盆会**
八月十六日(土)午前九時〜午後二時

□**彼岸会**
九月二十六日(金)午後一時〜三時

□**本堂ご開扉**
八月十三日(水)〜十五日(金)(予定)
九月二十日(土)〜二五日(木)(予定)
午前九時〜午後三時まで、ご焼香の用意をしておりますので、お参りください。

## マトリ合同法要
### 「若葉祭」行われる

五月十一日(日)午後一時から、がっしょう園マトリの合同法要「若葉祭」が営まれました。あいにくの雨の中でしたが、大勢の関係者の方々が集まりました。泉渓寺住職山本能人老師の法話をお聞きしたのち、法要を執り行いました。

がっしょう園マトリは、継承者がいなくなっても永代にわたって供養する永代供養墓です。少子化、都市化の中で注目を集め、希望される方も増えております。

## お気軽にどうぞ

**坐禅会**
毎月二十日　午前十時〜・午後一時〜
献香料（お志）

**早朝坐禅会**
第一土曜日　午前六時三十分〜

**写経会**
毎月二十日　午前十時〜午後四時
写経料／二〇〇〇円

**子ども空手教室**
毎週木曜日　午後七時〜九時
一か月／六〇〇〇円

**書道教室**
第二木曜日　午前十時〜
第四木曜日　午後一時〜
一回／二五〇〇円

**絵手紙教室**
第二木曜日　午後一時〜
第四木曜日　午前十時〜
一回／二五〇〇円

**実用ペン習字教室**
第一日曜日　午後二時〜四時
一回／一〇〇〇円（材料費別）
講師／岩木千舟

※いずれも事前のお申込みが必要です。

## 春・休・み・親・子・坐・禅・会

四月六日（日）午後一時〜三時
坐禅で静かなひとときを過ごしたそのあとは、ＴＶゲームなどいろんなゲームをにぎやかに楽しみました。春休みの思い出ができました。

「ほーっと」9号
平成15年7月
編集・発行：楞伽林「ほーっと」編集室
〒546-0034　大阪市東住吉区長居公園1-32
0120-711-493
TEL 06-6698-1001  FAX 06-6697-3330
Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.rinnanji.com

**編集後記**
ようやく「ほーっと9号」を送り出すことができました。お盆の行事に参加して、ほーっとするひとときをお過ごしください。読後の感想をお寄せください。採用分には粗品を送らせていただきます。文章の量は関係ありません。どうぞお気軽に編集室宛お送りください。FAXでも結構です。